

今、この人に **いんたびゅう** Interview

外国人女性の会「パルヨン」代表理事

ハッカライネン ニーナ さん

日本の社会を外国人にとって 住みやすい社会にするために!



■2007年に外国人女性の会「パルヨン」を立ち上げられたきっかけは何だったのでしょうか?

京都市で外国籍市民施策懇話会のメンバーに加わって施策の提言を多数しましたが、行政がすぐに動けるものでもなく、それなら自分たちでしたほうが早いと思い、同じような気持ちの外国出身者と京都に暮らす日本人でグループを作り、外国人女性の支援に取り組むことにしました。当時の国際交流団体が行っていた事業の取り組みというと、生け花や茶道、着物の着付けといった『異文化体験』ばかりなんです。親の介護や子育てなど、言葉がでない外国人女性に向けた生活情報が少なく、彼女たちは毎日の暮らしの情報を得るのにとても苦労していました。外国人住民には行政からの医療、子育て、防災、税金といった『生活支援』の情報がもっと必要なんです。

■グループ名「パルヨン」という名前は どういう思いで付けられたんでしょうか?

パルヨン「paljon」とはフィンランド語で「たくさん」という意味です。たくさんの交流の場で、たくさんの友達をつくり、情報をたくさん得て、たくさんの良いことがありますように、という思いで名づけました。パルヨンでは多様な国籍の人がいます。外国人と日本人、女性と男性と一緒に活動し、日本語を共通語としています。英語、中国語の通訳もあります。お子さんと一緒に参加もできます。

■ところで、ニーナさんは日本に来て 20年以上ということですが、来日の きっかけは何だったのでしょうか?

学生時代にアジアを旅して、日本に興味を持ちました。旅を終えてフィンランドの大学に戻ってから中国語と日本語を勉強しはじめ、「東アジア学科」を専攻しました。また、仏教に興味を持っ

ていて、日本に留学しました。その後、大学院を卒業するため、フィンランドに戻りました。再び来日してから興味は移民政策と多文化共生に変わりました。現在も多文化共生と反レイシズム教育について研究を続けています。

■日本で暮らしていく中で、日本への イメージは変化していききましたか?

日本では初対面で年齢を聞く人が多いことに驚きました。人の年齢や性別、国籍や学歴などの属性で人を判断するのではなく、内面を見て個人を知って欲しいですね。「こうあるべき」という固定観念があり過ぎて、日本人にとっても息苦しい社会になっているように思います。ですから、パルヨンでは誰もが自由に入って話し、あらゆることの問題解決につなげていくような会になって欲しいと思っています。そして、外国人にとっても住みやすい社会にしていきたいのです。

■最後に今後の活動と、現在お住まい の滋賀の印象をお願いします。

現在、パルヨンには40人のボランティアで東京と京都で活動していますが、活動地域をもっと広げていきたいと思っています。様々な会の委員に入り、パネルディスカッションにも参加し、外国人が抱えている課題について積極的に発信しています。

滋賀の風景は湖と森で、私の故郷フィンランドとよく似ています。活動拠点の京都までは電車での往復の毎日ですが、滋賀に戻ってくると癒される気分になりますね。滋賀とも縁ができたので、滋賀在住の外国人女性のニーズに合わせた「パルヨン」の活動にも広がってきたいですね。

【滋賀県国際協会事務局より】

ニーナさんには2021年6月より、当協会の理事に就任していただきました。今後とも、よろしくお願いします。

●プロフィール●

フィンランド出身。1992年来日。2007年、京都に暮らす外国人女性のサポートを目的とした「外国人女性の会パルヨン」を設立。2017年、2021年、外務省・国際移住機関(IOM)主催の「外国人の受け入れと社会統合のための国際フォーラム」にパネリストで参加。その他、講演活動や新聞掲載記事多数。2020年に「京の公共人材大賞最優秀賞」を受賞。現在、大津市在住。

外国人女性の会 「パルヨン」の活動紹介

●何でもしゃべれる会「プフー」の開催

京都府国際センターで1ヶ月に3回(オフライン1回&オンライン2回)、英語と日本語で開催。

「プフー」はフィンランド語で「ざっくりと(遠慮しないで)しゃべれる」という意味。日本での生活、言葉の問題、子育て、医療、近所付き合い、家族の問題、地域の習慣などについて、外国人女性が話題を出し、それについて他の参加者(外国人と日本人)からアドバイスや情報を得ることができる。

●電話サポートとチャット

月に4回サポートの電話&チャットを行っており、ここでは深刻な個人的な悩みを中国語、韓国語、英語、日本語で話すことができる。

●リラックウォーク

▼平等院ヘリラックウォーク

コロナ禍で部屋の中に人が集まることができないため、小さなグループで、日本語と英語で話しながら自由に歩いて美しいところに出かける活動。



●マインドフルネスミーティング

コロナ禍でストレスを抱えている人たちのための瞑想の場で、外国人女性だけで英語で会話。

●1対1で日本語のオンライン指導

●WEB版でも読め、ダウンロードも できる制作物の発行

- ◇やさしい日本語で書いてある「上京区に住む外国人のためのわかりやすい生活ガイドブック作成。(やさしい英語版と中国版も作成)」
- ◇日本人向け小冊子「となりの外国人とのおつきあい」作成

●外国人のためのわかりやすい講座の開催

京都のマナー講座&防災講座&優しい日本語講座

★「パルヨン」ホームページ

<https://paruyon.com>